



Cisco Prime Infrastructure 2.2 クイック スタート ガイド

- 1 概要 (P.2)
- 2 インストールを開始する前に (P.3)
- 3 Cisco Prime Infrastructure のインストール (P.8)
- 4 インストール後の作業 (P.10)
- 5 参考資料 (P.13)

改訂日 : 2015 年 2 月 16 日、OL-32125-01

SUPPLEMENTAL LICENSE AGREEMENT FOR CISCO SYSTEMS NETWORK MANAGEMENT SOFTWARE: CISCO PRIME INFRASTRUCTURE

IMPORTANT-READ CAREFULLY: This Supplemental License Agreement (“SLA”) contains additional limitations on the license to the Software provided to Customer under the End User License Agreement between Customer and Cisco. Capitalized terms used in this SLA and not otherwise defined herein shall have the meanings assigned to them in the End User License Agreement. To the extent that there is a conflict among any of these terms and conditions applicable to the Software, the terms and conditions in this SLA shall take precedence.

By installing, downloading, accessing or otherwise using the Software, Customer agrees to be bound by the terms of this SLA. If Customer does not agree to the terms of this SLA, Customer may not install, download or otherwise use the Software.

ADDITIONAL LICENSE RESTRICTIONS:

- **Installation and Use.** The Software components are provided to Customer solely to install, update, supplement, or replace existing functionality of the applicable Network Management Software product. Customer may install and use the following Software components:
 - **Cisco Prime Infrastructure** : お客様のネットワーク管理環境内にあるサーバにインストールできます。
- 付与されているソフトウェア ライセンスごとに、お客様は、本ソフトウェアで提供されるライセンス ファイルまたはソフトウェア ライセンス権利証明書で指定された数のネットワーク デバイスおよびコーデックを管理するため、単一のサーバに本ソフトウェアをインストールし、実行できます。お客様の要件がネットワーク デバイスおよびコーデックの制限を超える場合、お客様は、アップグレード ライセンスまたは本ソフトウェアの追加コピーを購入する必要があります。ネットワーク デバイスおよびコーデックの制限は、ライセンス登録によって実施されます。
- **Reproduction and Distribution.** Customers may not reproduce nor distribute the Software.

DESCRIPTION OF OTHER RIGHTS AND LIMITATIONS.

Refer to the Cisco Systems, Inc. End User License Agreement.

1 概要

ここでは、製品およびこのマニュアルに関する基本情報を提供します。

- [「このマニュアルについて」](#)
- [「製品概要」](#)
- [「主な機能」](#)
- [「Cisco Prime Infrastructure のライセンスについて」](#)

このマニュアルについて

このマニュアルでは、Cisco Prime Infrastructure 2.2 のインストール方法について説明します。

この製品の設定と管理の詳細については、[『Cisco Prime Infrastructure 2.2 Administrator Guide』](#) および [『Cisco Prime Infrastructure 2.2 User Guide』](#) を参照してください。

このマニュアルでは、お客様が用意したハードウェアに仮想アプライアンスとして Prime Infrastructure をインストールする方法を説明します。Prime Infrastructure は、ハードウェア アプライアンスとしても用意されています。物理アプライアンスのインストール方法については、[『Cisco Prime Infrastructure 2.2 Appliance Hardware Installation Guide』](#) を参照してください。

製品概要

Prime Infrastructure では、有線/ワイヤレス アクセス、キャンパス、およびブランチ ネットワークの包括的なライフサイクル管理のための単一の統合ソリューションを提供し、エンド ユーザの接続性とアプリケーションのパフォーマンスの保証の問題で豊富な可視性を提供します。Prime Infrastructure は、企業 IT への「個人所有デバイスの持ち込み」(BYOD) を実現し、新しいサービスのロールアウト、モバイル デバイスのセキュアなアクセスと管理を加速します。アプリケーション パフォーマンスの可視性およびネットワーク制御とクライアントの認識とを緊密に結びつけることで、Prime Infrastructure は、エンド ユーザに妥協のない品質のエクスペリエンスを保証します。Cisco Identity Services Engine (ISE) の機能を使用した緊密な統合によって、セキュリティとポリシー関連の問題を通してこの視覚化が拡張され、クライアントのアクセスの問題を解決するための明確な手順とともに、この問題の完璧な表示を提供します。

主な機能

手順は次のとおりです。

- Prime Infrastructure の機能と利点の概要については、最新の [Cisco Prime Infrastructure データ シート](#) を参照してください。
- 頻繁に使用する Prime Infrastructure の機能については、[『Cisco Prime Infrastructure 2.2 User Guide』](#) を参照してください。
- 管理者向けの機能の詳細については、[『Cisco Prime Infrastructure 2.2 Administrator Guide』](#) を参照してください。

Cisco Prime Infrastructure のライセンスについて

Prime Infrastructure のライセンスによって、使用できる機能およびそれらの機能を使用して管理できるデバイスの数が決まります。その他の参考資料は次のとおりです。

- Cisco Prime Infrastructure のライセンスの種類と注文方法については、[『Cisco Prime Infrastructure 2.2 Ordering and Licensing Guide』](#) を参照してください。
- 購入済みのライセンスを適用する方法については、[『Cisco Prime Infrastructure 2.2 User Guide』](#) を参照してください。

2 インストールを開始する前に

Cisco Prime Infrastructure をインストールする前に、次の項目を参照してください。

- [「システム要件について」](#)
- [「仮想アプライアンスのオプション」](#)
- [「物理アプライアンスのオプション」](#)
- [「Web クライアントの要件」](#)
- [「FIPS モードのインストール オプション」](#)
- [「前のリリースの Prime Infrastructure からアップグレードする場合」](#)

システム要件について

Prime Infrastructure は、アプライアンスとして提供される仮想マシン (VM) で、アプリケーションと安全で強化された 64 ビットの Red Hat Linux Enterprise Server オペレーティング システムが組み込まれています。アプライアンスの提供形態は、次の 2 つに大別されます。

- 仮想：仮想アプライアンスは、Open Virtualization Archive (OVA) ファイルとしてパッケージ化されています。このファイルは、ユーザ側で用意する、VMware ESXi を実行中の適格なサーバにインストールする必要があります。この形態の場合、任意のサーバ ハードウェア上でアプライアンスを実行できます。また、企業ネットワークのサイズに応じてそれぞれに最適化された 4 つのいずれかの設定で仮想アプライアンスをインストールできます。仮想アプライアンスの各サイズ オプションに対応するハードウェア要件および容量については、[「仮想アプライアンスのオプション」](#) を参照してください。

- 物理：物理アプライアンスは、ラック取り付け型サーバとしてパッケージ化されており、VMware ESXi および Prime Infrastructure VM があらかじめインストールされて設定されています。標準設定またはハイパフォーマンス設定のいずれかを選択できます。物理アプライアンスのハードウェア仕様および容量については、「物理アプライアンスのオプション」を参照してください。

仮想アプライアンスのオプション

Prime Infrastructure 仮想アプライアンスを導入する場合は、表 1 に記載する 4 つのオプションのいずれかを選択できます。ユーザ側が用意するハードウェアは、選択するオプションのシステム要件として、この表に記載されている仕様を満たすか、それ以上でなければなりません。

表 1 Prime Infrastructure 仮想アプライアンスのオプション

仮想アプライアンスのオプション	2.X オプション	Express	Express Plus	Standard	Professional
	VMware ESXi のバージョン ¹	5.0/5.1/5.5	5.0/5.1/5.5	5.0/5.1/5.5	5.0/5.1/5.5
	アプライアンス イメージ形式	OVA	OVA	OVA	OVA
	1.x オプションと同等	小	中	大	特大
ハードウェア要件	仮想 CPU (vCPU)	4	8	16	16
	メモリ	12 GB	16 GB	16 GB	24 GB
	ディスク容量	300 GB	600 GB	900 GB	1,200 GB
	ディスク I/O 速度	200 MBps	200 MBps	200 MBps	200 MBps
デバイス	統合 AP の最大数	300	2500	5000	20,000
	自律 AP の最大数	300	500	3000	3000
	WLAN コントローラの最大数	5	50	500	1000
	有線接続の最大数 (スイッチ、ルータ)	300	1000	6000	13,000
	MSE の最大数	10	10	10	25
	NAM	5	5	500	1,000
	デバイスの最大数	1000	3000	10,000	24000
クライアント	有線クライアント数	50,000	50,000	50,000	50,000
	ワイヤレス クライアント数	30,000	30,000	75,000	200,000
	クライアント変更数 (5 分間隔)	5,000	5,000	25,000	40,000
モニタリング	イベント持続レート (イベント数/秒)	100	100	300	1000
	Netflow (フロー数/秒)	3000	3000	16,000	80,000
	最大インターフェイス数	12,000	50,000	250,000	350,000
	最大有効 NAM データ ポーリング数	5	5	20	40
システム	最大サイト数/キャンパス	200	500	2500	2500
	最大グループ数 ²	50	100	150	150
	最大仮想ドメイン数	100	500	1200	1200
システム ユーザ	同時使用 GUI クライアント数	5	10	25	50
	同時使用 API クライアント数	2	2	5	5

1. VMware ESXi 4.x はサポートされていません。

2. 「最大グループ数」は、すべてのユーザ定義グループ、設定済みグループ、デバイス グループ、およびポート グループの合計数です。

物理アプライアンスのオプション

Prime Infrastructure 物理アプライアンスを導入する場合は、表 2 に記載する Gen 1 または Gen 2 のいずれかのオプションを選択できます。Gen 1 および Gen 2 物理アプライアンスの容量はそれぞれ、仮想アプライアンス Standard オプション、Professional オプションの容量と同じです。

表 2 Prime Infrastructure 物理アプライアンスのオプション

物理アプライアンスのオプション	2.X オプション	Gen 1	Gen 2 ¹
物理アプライアンスのオプション	アプライアンス イメージ形式	ベアメタル/ISO	ベアメタル/ISO
	1.x オプションと同等	物理アプライアンス	物理アプライアンス
ハードウェア仕様	CPU (コア数/スレッド数)	8 C/16 T	10 C/20 T
	メモリ	16 GB	64 GB
	ディスク容量	4x300 GB	8x900 GB
	RAID Level	RAID 5	RAID 10
	ディスク I/O 速度	200 MBps	200 MBps
デバイス	統合 AP の最大数	5000	20,000
	自律 AP の最大数	3000	3000
	WLAN コントローラの最大数	500	1000
	有線接続の最大数 (スイッチ、ルータ)	6000	13,000
	MSE の最大数	10	25
	NAM	500	1000
	デバイスの最大数	10,000	24000
クライアント	有線クライアント数	50,000	50,000
	ワイヤレス クライアント数	75,000	200,000
	クライアント変更数 (5 分間隔)	25,000	40,000
モニタリング	イベント持続レート (イベント数/秒)	300	1000
	Netflow (フロー数/秒)	16,000	80,000
	最大インターフェイス数	250,000	350,000
	最大有効 NAM データ ポーリング数	20	40
システム	最大サイト数/キャンパス	2500	2500
	最大グループ数 ²	150	150
	最大仮想ドメイン数	1200	1200
システム ユーザ	同時使用 GUI クライアント数	25	50
	同時使用 API クライアント数	5	5

1. Gen 2 Cisco UCS ベースの物理アプライアンスのリリースは、2015 年第 1 四半期に予定されています。

2. 「最大グループ数」は、すべてのユーザ定義グループ、設定済みグループ、デバイス グループ、およびポート グループの合計数です。

Web クライアントの要件

すべての Prime Infrastructure ユーザは、クライアント Web ブラウザからアプライアンスにアクセスします。Web クライアントの要件は次のとおりです。

- ハードウェア：次のテスト済みサポート ブラウザのいずれかに対応している Mac または Windows のラップトップまたはデスクトップ。
 - Google Chrome 34、35、36 以降
 - Microsoft Internet Explorer 10、または 11 (プラグイン不要)
 - Mozilla Firefox ESR 17、24
 - Mozilla Firefox 30 以降
- 表示解像度：画面解像度を 1280 x 800 以上に設定することを推奨します。
- Adobe Flash Player：Prime Infrastructure の機能が適切に動作するには、Adobe Flash Player をクライアント マシンにインストールする必要があります。Adobe の Web サイトから、Adobe Flash Player の最新バージョンをダウンロードして、インストールすることを推奨します。

FIPS モードのインストールオプション

Prime Infrastructure 仮想アプライアンスには、「FIPS モード」のインストール オプションが用意されています。このオプションは、FIPS-140-2 標準に準拠した製品を使用する必要があるお客様を対象としています。

Federal Information Processing Standards (FIPS) は、米国政府のコンピュータ セキュリティの標準です。FIPS-140-2 シリーズは、暗号化モジュールの要件を指定します。詳細については、<http://www.nist.gov/itl/fips.cfm> を参照してください。

Prime Infrastructure システムが FIPS モードで動作しているかどうかを確認するには、システム CLI コマンド **show security-status** を使用します。詳細については、『Cisco Prime Infrastructure 2.2 Administrator Guide』の「Checking On Server Security Status」を参照してください。

FIPS モードでインストールするかどうかを決定するには、次の点に注意してください。

- FIPS モードで Prime Infrastructure をインストールすると、FIPS-140-2 の暗号化セキュリティ要件に準拠するために、特定の機能を使用できなくなります。詳細については、『Cisco Prime Infrastructure 2.2 Administrator Guide』の「Best Practices: Server Security Hardening」を参照してください。
- FIPS 準拠として認定されているのは、Prime Infrastructure のワイヤレス管理ソリューション機能のみです。Prime Infrastructure を使用して有線デバイス、または有線デバイスとワイヤレス デバイスの組み合わせを管理する場合は、FIPS モードでインストールしないでください。
- FIPS モードはインストールオプションであり、インストール後に無効にすることはできません。非 FIPS モードで Prime Infrastructure を使用するには、製品を再インストールする必要があります。
- FIPS モードを有効にすると、TFTP および FTP はデフォルトで無効にされます。アップロードおよびダウンロード操作には、SFTP が使用されます。
- FIPS モードを有効にすると、プラグアンドプレイ機能を使用できなくなります。
- FIPS モードを有効にすると、ルート を有効にできなくなるため、ルート モードの CLI へのアクセスが制限されます。
- FIPS モードでインストールされた Prime Infrastructure 2.2 を、非 FIPS 対応サーバで作成されたバックアップから復元することはできません。逆に、FIPS 対応バックアップを非 FIPS 対応 Prime Infrastructure サーバに復元することもできません。2.2 より前の Prime Infrastructure は、非 FIPS 対応サーバでのみ復元できます。

前のリリースの Prime Infrastructure からアップグレードする場合

このバージョンの Prime Infrastructure では、インプレース アップグレードを使用できません。最新バージョンにアップグレードするには、新しいサーバにこのバージョンの Prime Infrastructure を仮想アプライアンスとしてインストールするか、新しい物理アプライアンスにインストール済みの Prime Infrastructure を注文する必要があります。その後、前のインストールからのアプリケーションバックアップを使用して、古い Prime Infrastructure インストールから新しいインストールにデータを移行できます。

現在、次のいずれかのバージョンの Prime Infrastructure を使用している場合は、既存のデータをバックアップしてから、Prime Infrastructure 2.2 を実行している別のサーバにそのデータを復元できます。

- Cisco Prime Infrastructure 2.1.2 (UBF パッチが適用されていること)
- Cisco Prime Infrastructure 2.1.1 (UBF パッチが適用されていること)
- Cisco Prime Infrastructure 2.1.0.0.87
- Cisco Prime Infrastructure 1.4.2
- Cisco Prime Infrastructure 1.4.1
- Cisco Prime Infrastructure 1.4.0.45

1.4.0.45 または 2.1.0.0.87 より前のバージョンを使用している場合は、サーバをバージョン 2.1.0.0.87 (またはバージョン 1.4.0.45) にアップグレードしてから、バックアップを取る必要があります。

複数のバージョンの Prime Infrastructure を実行していて、それらの Prime Infrastructure からデータを移行する必要がある場合は、「[複数の Prime Infrastructure バージョンを実行している場合](#)」を参照してください。

新しい Prime Infrastructure サーバにバックアップを復元するには、その Prime Infrastructure サーバが前のサーバ以上のサイズでなければならないことに注意してください。「[FIPS モードのインストール オプション](#)」を参照してください。

以前のサポート対象バージョンの Prime Infrastructure からデータをバックアップするには、次の手順に従ってください。

-
- ステップ 1** 現在実行している Prime Infrastructure バージョンのリモート バックアップ リポジトリをまだセットアップしていない場合は、セットアップします。詳細については、『[Cisco Prime Infrastructure 2.2 Administrator Guide](#)』の「[Using Remote Backup Repositories](#)」を参照してください。
 - ステップ 2** 現在実行している Prime Infrastructure バージョンのアプリケーションのバックアップを取り、リモート リポジトリにバックアップを保存します。詳細については、『[Cisco Prime Infrastructure 2.2 Administrator Guide](#)』の「[Taking Application Backups](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** 「[バックアップの検証](#)」の説明に従って、バックアップの整合性を確認します。
-

複数の Prime Infrastructure バージョンを実行している場合

前の複数のリリースの Prime Infrastructure を実行している場合 (たとえば、バージョン 1.4.x とバージョン 2.1.x)、データを復元するために使用するバージョンを 1 つ選択する必要があります。複数のバージョンの Prime Infrastructure からデータを復元することはできません。複数のバージョンの Prime Infrastructure からデータを統合するには、以下を行います。

1. 前の Prime Infrastructure バージョンを実行している 1 つの Prime Infrastructure システムに対して復元操作を実行します。「[前のリリースの Prime Infrastructure からのデータの移行](#)」を参照してください。
2. 他の Prime Infrastructure システムからデバイス インベントリおよびマップをエクスポートし、その情報を Prime Infrastructure 2.2 システムにインポートします。

バックアップの検証

追加 Prime Infrastructure サーバ (予備の Prime Infrastructure アプライアンスまたは新しい Prime Infrastructure 仮想マシン) をセットアップして、Prime Infrastructure バックアップ データの有効性を確認してから、『[Cisco Prime Infrastructure 2.2 Administrator Guide](#)』の「[Restoring From Application Backups](#)」の説明に従って復元操作を行ってください。バックアップを検証するための追加 Prime Infrastructure システムがない場合は、少なくとも 2 つのバックアップをとって、データ損失のリスクを軽減します。

復元操作が機能しない場合、またはバックアップされたイメージに問題がある場合は、実動システムから別のバックアップを取るか、以前の Prime Infrastructure のバックアップからの復元を試みます。

このバージョンの Prime Infrastructure をインストールする前に検証済みのバックアップを作成できない場合は、Cisco TAC でサポート ケースを開きます。

3 Cisco Prime Infrastructure のインストール

関連トピックの説明に従って、Prime Infrastructure 仮想アプライアンスをインストールします。

この『クイック スタート ガイド』では、仮想アプライアンスのインストールについてのみ説明します。Prime Infrastructure 物理アプライアンスのインストールの詳細については、『Cisco Prime Infrastructure Appliance Hardware Installation Guide』を参照してください。

関連項目

- 「インストール開始前の作業」
- 「VMware vSphere Client からの OVA の導入」
- 「サーバのインストール」

インストール開始前の作業

Prime Infrastructure 仮想アプライアンスをインストールする前に、次の事項を確認する必要があります。

- Prime Infrastructure サーバとして使用する予定のマシン上に VMware ESXi がインストールされ、設定されている。VMware ホストのセットアップと設定については、VMware のマニュアルを参照してください。VMware ESX 5.5 を使用する場合、vSphere Client または ESX5.5U2 Client を使用して仮想マシンを管理する必要があります。仮想マシンの設定を編集しないでください。また、設定の拡張または手動によるディスクの追加も行っておりません。
- インストールされた VMware ESXi ホストが到達可能です。VMware vSphere Client をインストールする方法は、VMware のマニュアルを参照してください。ネットワークで仮想ホストが使用可能になった後、その IP アドレスを参照して、VMware vSphere Client をインストールできる Web ベースのインターフェイスを表示できます。
- Prime Infrastructure OVA が、VMware vSphere Client のインストール先と同じマシンに保存されている。シスコとの取り決めに従って、OVA ファイルを Cisco.com からダウンロードするか、シスコが提供するインストール メディアを使用します。

VMware vSphere Client からの OVA の導入

OVA を導入する前に、システム要件をすべて満たしていることを確認します。「システム要件について」および「インストール開始前の作業」の項を確認します。

-
- ステップ 1** VMware vSphere Client を起動し、ESXi ホストまたは vCenter サーバに接続します。
 - ステップ 2** [File] > [Deploy OVF Template] を選択します。
 - ステップ 3** [Browse] をクリックし、ローカル マシン上の OVA ファイルを保存した場所にアクセスしてから、[Next] をクリックします。
 - ステップ 4** OVF テンプレートの詳細ページで詳細を確認し、[Next] をクリックします。
 - ステップ 5** [End User License Agreement] ウィンドウで、[Accept] をクリックしてから [Next] をクリックします。
 - ステップ 6** [Name and Location] ウィンドウで、次の項目を指定します。
 - [Name] フィールドに、新しい仮想マシンの名前を入力します。
 - [Inventory Location] 領域で、適切なフォルダを選択します。(vSphere Client が ESXi ホストに直接接続されている場合、このオプションは表示されません)。
 - ステップ 7** [Next] をクリックします。

ステップ 8 [Deployment Configuration] ウィンドウで、目的の設定 (Express、Standard、Professional など) を選択し、選択した設定に必要なリソースを確認します。



(注) 最適なパフォーマンスを得るために、CPU およびメモリ リソースの 100% を予約することを推奨します。

ステップ 9 [Next] をクリックします。

ステップ 10 [Host/Cluster] ウィンドウで、OVF テンプレートを展開するホストまたはクラスタを選択してから、[Next] をクリックします。(vSphere Client が ESXi ホストに直接接続されている場合、このオプションは表示されません)。

ステップ 11 [Storage] ウィンドウで、「[仮想アプライアンスのオプション](#)」で説明されている必要な領域の要件を満たすデータストアを選択し、[Next] をクリックします。

ステップ 12 [Disk Format] ウィンドウで、仮想マシンの仮想ディスクを保存する目的のプロビジョニングを選択し、[Next] をクリックします。

ステップ 13 [Network Mapping] ウィンドウで、仮想マシンで使用するネットワークを選択し、[Next] をクリックします。

ステップ 14 [Ready to Complete] ウィンドウで、設定を確認してから [Power on After Deployment] を選択し、[Finish] をクリックします。

サーバのネットワーク速度および IOPS によっては、導入が完了するまでに数分かかることがあります。

サーバのインストール

Prime Infrastructure OVA の導入後に、Prime Infrastructure をインストールおよび起動するために仮想アプライアンスを設定する必要があります。

ステップ 1 仮想マシンの電源がまだオンになっていない場合、VMware vSphere Client で導入した仮想アプライアンスを右クリックし、[Power] > [Power On] の順に選択します。

ステップ 2 [Console] タブをクリックします。

サーバのブート後に、ローカルホスト ログイン プロンプトが表示されます。

ステップ 3 ローカルホスト ログイン プロンプトで、**setup** と入力します。

ステップ 4 コンソールから次のパラメータの入力を求められます。

- [hostname] : 仮想アプライアンスのホスト名。
- [IP Address] : 仮想アプライアンスの IP アドレス。
- [IP default netmask] : IP アドレスのデフォルト サブネット マスク。
- [IP default gateway] : デフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
- [Default DNS domain] : デフォルトのドメイン名。
- [Primary nameserver] : プライマリ ネーム サーバの IP アドレス。
- [Secondary name servers] : セカンダリ ネーム サーバの IP アドレス (存在する場合)。最大 3 台のセカンダリ ネーム サーバを追加できます。
- [Primary NTP server] : ユーザが使用するプライマリ ネットワーク タイム プロトコル サーバの IP アドレスまたはホスト名。(time.nist.gov がデフォルトです)。
- [Secondary NTP servers] : プライマリが利用できないときに使用されるセカンダリ NTP サーバの IP アドレスまたはホスト名。
- [System Time Zone] : ユーザが使用する時間帯コード。サポートされる時間帯は、『[Cisco Prime Infrastructure Appliance Hardware Installation Guide](#)』の「[System Time Zones](#)」にリストされています。
- [Clock time] : サーバの時間帯に基づいた時刻。
- [Username] : 最初の管理ユーザの名前 (「admin」)。これは、コンソールまたは SSH を使用してサーバにログインするために使用する管理者アカウントです。デフォルトの admin を受け入れることができます。
- [Password] : 管理ユーザ パスワードを入力し、確認します。



ヒント

Prime Infrastructure パスワードは、安全な場所に保管してください。パスワードを忘れた場合は、『[Cisco Prime Infrastructure 2.2 Administrator Guide](#)』の「[Recovering Administrator Passwords on Virtual Appliances](#)」を参照してください。

- ステップ 5** これらの値の入力が完了すると、入力したネットワーク設定パラメータがインストール用アプリケーションによってテストされます。テストに成功すると、Prime Infrastructure のインストールが開始されます。
- ステップ 6** アプリケーションのインストールが完了すると、次のインストール後パラメータの入力を促されます：
- [High Availability Role Selection] : インストールしたサーバをハイ アベイラビリティ実装のフェールバックのセカンダリ サーバとして使用する場合は、プロンプトで **yes** と入力します。ハイ アベイラビリティの登録に使用する認証キーを入力するように促されます。プロンプトに対して **no** と入力した場合、サーバはプライマリ サーバ (スタンドアロン) として動作し、インストールでは次のプロンプトが出されます。
 - [Web Interface Root Password] : デフォルトのルート管理者が使用するパスワードを入力して確認します。これは、Prime Infrastructure Web ユーザ インターフェイスにログインし、別のユーザ アカウントを設定するために使用するルート アカウントです。
 - [Enabling FIPS Mode] : Prime Infrastructure を Federal Information Processing Standards (FIPS) 140-2 準拠の操作モードでインストールする場合は、**yes** を指定します (このオプションを選択する前に、必ず「[FIPS モードのインストール オプション](#)」を読んで理解してください)。
- ステップ 7** インストールに進むには、[Yes] を選択します。ハイ アベイラビリティおよび FIPS モード オプションを再入力する場合は、[No] を選択します。
- ステップ 8** インストールが完了すると、アプライアンスがリポートし、ログイン プロンプトが表示されます。
- ステップ 9** ステップ 4 で指定した「admin」ユーザ名とパスワードを使用して仮想マシンにログインします。
- ステップ 10** `ncs status` コマンドを実行して (『[Cisco Prime Infrastructure 2.2 Administrator Guide](#)』の「[Checking Prime Infrastructure Server Status](#)」を参照)、プロセスが再開したことを確認します。次のプロセス ステータスが表示されるはずです。
- Non-FIPS (Standalone) : すべてのプロセスが稼動しています。
 - Non-FIPS (Standalone) : FTP、TFTP、および PnP は無効にされています。他のプロセスが実行されています。
 - Secondary server : ヘルス モニタリング プロセスが実行されています。(これは、セカンダリ サーバ上でのみ実行されるプロセスです)。

4 インストール後の作業

Prime Infrastructure のインストールが完了したら、次の項の手順に従います。

- 「[前のリリースのPrime Infrastructure からのデータの移行](#)」
- 「[Prime Infrastructure ユーザ インターフェイスへのログイン](#)」
- 「[Prime Infrastructure のスタートアップ](#)」

前のリリースのPrime Infrastructure からのデータの移行

Prime Infrastructure 1.4.x または 2.1.x からのデータを新しくインストールした Prime Infrastructure 2.2 サーバに復元するには、次の手順に従います。



- (注) 前の複数のリリースの Prime Infrastructure を実行している場合 (たとえば、バージョン 1.4.x とバージョン 2.1.x)、データを復元するために使用するバージョンを 1 つ選択する必要があります。複数のバージョンの Prime Infrastructure からデータを復元することはできません。「[複数の Prime Infrastructure バージョンを実行している場合](#)」を参照してください。

-
- ステップ 1** 古いホストと同じリモート バックアップ リポジトリを使用するよう、新しい Prime Infrastructure ホストを設定します。詳細については、『[Cisco Prime Infrastructure 2.2 Administrator Guide](#)』の「[Using Remote Backup Repositories](#)」を参照してください。
- ステップ 2** 『[Cisco Prime Infrastructure 2.2 Administrator Guide](#)』の「[Restoring From Application Backups](#)」で説明されているように、リモート リポジトリのアプリケーション バックアップを新しいホストに復元します。
- ステップ 3** プロセスが完了したら、次の作業を行います。
- ユーザに対して、アップグレードされた Prime Infrastructure サーバに接続を試行する前に、Prime Infrastructure の古いバージョンにアクセスしたすべてのクライアント マシンのブラウザでキャッシュをクリアするように指示します。
 - Prime Infrastructure を使用して Cisco Wireless LAN Controllers を管理している場合は、『[WLC 設定の再同期 \(P.11\)](#)』を参照してください。
 - 『[Cisco Prime Infrastructure 2.2 User Guide](#)』の「[Synchronizing Devices](#)」の説明に従って、デバイスを同期します。
- ステップ 4** 新しい Prime Infrastructure 2.2 サーバが動作可能になったら、以前のサーバを停止します。
-

移行後の保証データ

新しい Prime Infrastructure 2.2 の仮想または物理アプライアンスに Prime Infrastructure 1.4.x のデータを復元した後は、保証ライセンスだけを再ホストする必要があります。その他のライセンスは、すべて自動的に新しいサーバに適用されます。新しいライセンスを要求するには、licensing@cisco.com に電子メールを送信します。

Prime Infrastructure 2.2 にデータを移動する際に、次の保証データは移行されません。

- Raw NetFlow 情報
- カスタム NetFlow レポート
- パケット キャプチャ ファイル
- 処理された非集約データ (PFR データおよび URL など)

どのバージョンの Prime Infrastructure からデータをバックアップして復元したかによっては、集約データも移行される場合があります。

- Prime Infrastructure 1.4.x から 2.2 に復元した場合：保証データは移行されません。(Prime Infrastructure 1.4 から 2.2 に移行した場合は、保証ライセンスも再発行する必要があります)。
- Prime Infrastructure 2.1.x から 2.2 に復元した場合：1 時間および 1 日の集約データが移行されます。
- Prime Infrastructure 2.2 から 2.2 に復元した場合：5 分、1 時間、1 日の集約データが移行されます。

WLC 設定の再同期

前のバージョンのバックアップをバージョン 2.2 の Prime Infrastructure に復元すると、Cisco Wireless LAN Controller 設定のサーバのレコードが、これらのデバイスに保管されている設定と同期していない状態になる場合があります。続ける前に、次の手順でこれらを再同期します。

-
- ステップ 1** Prime Infrastructure にログインします。
- ステップ 2** [Inventory] > [Network Devices] > [Wireless Controller] の順に選択します。Prime Infrastructure は、あらゆる Cisco WLC を含む、管理対象のすべてのコントローラの一覧を表示します。
- ステップ 3** [Refresh Config from Controller] を選択し、[Use the configuration on the controller currently] を選択してから、[Go] をクリックします。
- プロセスが完了すると、「成功」のステータス値で更新設定レポートが表示されます。
- 更新プロセスが失敗した場合、属性の不一致を表示するには、[Audit Now] をクリックします。
- ステップ 4** 他のすべての WLC に対してステップ 3 と 4 を繰り返します。
-

Prime Infrastructure ユーザ インターフェイスへのログイン

Web ブラウザを介して Prime Infrastructure ユーザ インターフェイスにログインする手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** Prime Infrastructure をインストールし、起動したのとは別のコンピュータ上で、いずれかのサポート ブラウザ（「[Web クライアントの要件](#)」を参照）を起動します。
- ステップ 2** ブラウザのアドレス行に、**https://ipaddress** と入力します。ここで、*ipaddress* は、Prime Infrastructure をインストールしたサーバの IP アドレスです。Prime Infrastructure ユーザ インターフェイスに [Login] ウィンドウが表示されます。
- 初めて Prime Infrastructure にアクセスしたとき、一部のブラウザでは、サイトが信頼できないという警告が表示されます。この場合は、指示に従ってセキュリティ例外を追加し、Prime Infrastructure サーバから自己署名証明書ダウンロードします。この手順の完了後に、ブラウザは将来のすべてのログイン試行で Prime Infrastructure を信頼できるサイトとして受け入れます。
- ステップ 3** 「[サーバのインストール](#)」で指定した管理者のユーザ名とパスワードを *root* と入力します。
- ステップ 4** [Login] をクリックして Prime Infrastructure にログインします。ユーザ インターフェイスは、この時点でアクティブになり、使用可能になります。ホームページが表示されます。
- ライセンスの問題が発生した場合は、アラート ボックスにメッセージが表示されます。評価ライセンスがある場合は、ライセンスの有効期限までの日数が表示されます。また、期限切れになったライセンスに対するアラートも表示されます。これらの問題に対処するために、[Administration] > [Licenses] ページに直接移動することができます。
- ステップ 5** システムのセキュリティを確保するには、[Administration] > [Users, Roles & AAA] > [Change Password] を選択して、*root* 管理者のパスワードを変更します。
- ユーザ インターフェイスを終了するには、ブラウザのページを閉じるか、そのページの右上隅の [Logout] をクリックします。Prime Infrastructure ユーザ インターフェイス セッションを終了しても、サーバ上では Prime Infrastructure はシャットダウンされません。
- Prime Infrastructure のセッション中にシステム管理者が Prime Infrastructure サーバを停止すると、セッションが終了し、ブラウザに「The page cannot be displayed.」というメッセージが表示されます。サーバが再起動される際に、セッションは Prime Infrastructure に再び関連付けられません。新しい Prime Infrastructure セッションを開始する必要があります。
-

Prime Infrastructure のスタートアップ

Prime Infrastructure をインストールした後、ネットワークの管理を開始するために、追加の作業を実行する必要があります。管理者の場合は、『[Cisco Prime Infrastructure 2.2 Administrator Guide](#)』の「Administrator Setup Tasks」で次の項を参照してください。

- [Configuring Data Sources for Prime Infrastructure with Assurance](#)（NetFlow およびパフォーマンス エージェントの有効化を含む）
- [Managing Disk Space Issues](#)（Prime Infrastructure サーバでの場合）
- [Renewing AAA Settings](#)
- [Prime Infrastructure Software Updates](#)

シスコのプラグアンドプレイ アプリケーションのインストールの詳細については、『[Cisco Plug and Play Application User Guide](#)』を参照してください。

『[Cisco Prime Infrastructure 2.2 User Guide](#)』の「Getting Started」の章にリストされているタスクを完了する必要があります。これらのタスクの完了後に、ネットワークのモニタと設定を開始できます。

5 参考資料

次の項で、Prime Infrastructure およびそのサポート オプションについて参考になる情報を提供します。

- 「[Prime Infrastructure と Assurance で使用されるポート](#)」
- 「[Prime Infrastructure 仮想アプライアンスの削除](#)」
- 「[ナビゲーションおよびマニュアルの参照先](#)」
- 「[関連資料](#)」
- 「[マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート](#)」

Prime Infrastructure と Assurance で使用されるポート

表 3 に、Prime Infrastructure と Assurance で使用されるポートの一覧を示します。これらのサービスを使用する場合は、次のポートがファイアウォールで開かれている必要があります。

表 3 Prime Infrastructure と Assurance で使用されるポート

ポート	プロトコル	方向	用途
7	TCP/UDP	サーバからエンド ポイントへ	エンド ポイントは ICMP によって検出
20、21	TCP	二方向サーバ/デバイス	デバイス間でのファイルの FTP 転送
		サーバから Cisco.com へ	Cisco.com からのファイルの FTP ダウンロード
22	TCP	サーバからエンド ポイントへ	トラブルシューティング プロセス時にエンドポイントへの SSH 接続を開始する。
		クライアントからサーバへ	Prime Infrastructure サーバに接続する。
23	TCP	サーバからデバイスへ	デバイスとの Telnet 通信
25	TCP	サーバから SMTP サーバへ	SMTP 電子メールのルーティング
49	TCP/UDP	サーバから TACACS サーバへ	TACACS を使用してユーザを認証
53	TCP/UDP	サーバから DNS サーバへ	DNS
69	UDP	デバイスからサーバへ	TFTP
161	UDP	サーバからデバイスへ	SNMP ポーリング
162	TCP/UDP	エンド ポイントからサーバへ	SNMP トラップ レシーバ ポート
443	TCP	クライアントからサーバへ	HTTPS を介した Prime Infrastructure へのブラウザ アクセス (デフォルトでは有効)。このポートは、Prime Infrastructure サーバと cisco.com との間でのソフトウェア更新の確認にも使用されます。
514	UDP	デバイスからサーバへ	Syslog サーバ
1099	TCP/UDP	AAA サーバからサーバへ	RMI レジストリ
1522	TCP/UDP	プライマリ サーバからセカンダリ サーバ、セカンダリ サーバからプライマリ サーバ	プライマリおよびセカンダリの Prime Infrastructure 間の高可用性 データベース接続を設定するため。
1645	UDP	サーバから RAS へ	RADIUS リモート アクセス サーバで Prime Infrastructure ユーザを認証
1646		RAS からサーバ	
1812		サーバから RAS へ	
1813		RAS からサーバ	
4444	TCP	AAA サーバからサーバへ	RMI サーバ
8082	TCP	クライアントからサーバへ	Health Monitor web インターフェイス、Apache/Tomcat JSP エンジン

表3 Prime Infrastructure と Assurance で使用されるポート (続き)

ポート	プロトコル	方向	用途
8087	TCP	クライアントからサーバへ	セカンダリ サーバのソフトウェア更新ページ
9991 ¹	UDP	デバイスからサーバへ	NetFlow データ レシーバ
10022 ~ 10041	TCP	デバイスからサーバへ	パッシブ FTP ファイル転送に使用するポート範囲 (コントローラ バックアップ、デバイス設定、レポート検索など)
11011 ¹	TCP	エンド ポイントからサーバへ	プラグ アンド プレイ ゲートウェイのプレーン テキスト ディス パッチャ ポート
11012			プラグ アンド プレイ ゲートウェイの SSL ディス パッチャ ポート
11013			プレーン テキスト プラグ アンド プレイ ポート
11014			プラグ アンド プレイ ゲートウェイの SSL ポート
61617 ²	TCP	サーバからエンド ポイントへ	Java Message Service 接続用の SSL ポート

1. プラグ アンド プレイ ゲートウェイを Prime Infrastructure サーバと統合する場合に使用します。
2. Prime Infrastructure プラグ アンド プレイ ゲートウェイでのみ使用されます。

Prime Infrastructure 仮想アプライアンスの削除

次の方法を使用した Prime Infrastructure の削除では、サーバ設定およびローカル バックアップなどのサーバ上のすべてのデータが削除されます。リモート バックアップがない場合、データを復元できなくなり、削除の他の例については、[『Cisco Prime Infrastructure 2.2 Administrator Guide』](#)の「[Removing Prime Infrastructure](#)」を参照してください。

ステップ 1 VMware vSphere クライアントで、Prime Infrastructure 仮想アプライアンスを右クリックします。

ステップ 2 仮想アプライアンスの電源を切ります。

ステップ 3 [Delete from Disk] をクリックして、Prime Infrastructure 仮想アプライアンスを削除します。

ナビゲーションおよびマニュアルの参照先

この項では、Prime Infrastructure の機能にアクセスするためのナビゲーション パスの情報と、[『Cisco Prime Infrastructure 2.2 User Guide』](#)でそれらの機能を扱っている項の詳細を示します。

表4 ナビゲーションおよびマニュアルの参照先

タスク	Cisco Prime Infrastructure 内のナビゲーション	『Cisco Prime Infrastructure User Guide』内の項
ライセンスを追加する	[Administration] > [Licenses]	使用する前に
ユーザの管理	[Administration] > [Users, Roles & AAA]	ユーザ アクセスの制御
ネットワークの検出	[Inventory] > [Device Management] > [Discovery]	使用する前に
仮想ドメインのセットアップ	[Administration] > [Virtual Domains]	使用する前に
モニタリング ダッシュボードの使用	[Dashboard] > [General]	ネットワークの運用
テンプレートを使用した設定とモニタリング	[Configuration] > [Templates] > [Features & Technologies] または [Monitor] > [Monitoring Policies]	ネットワークの設計
ワイヤレス設定のテンプレートの使用	[Configuration] > [Templates] > [Controller Template Launch Pad]	ワイヤレス コントローラ テンプレートの作成

表4 ナビゲーションおよびマニュアルの参照先 (続き)

タスク	Cisco Prime Infrastructure 内のナビゲーション	『Cisco Prime Infrastructure User Guide』内の項
アラームの表示	[Monitor] > [Alarms & Events]	アラームのモニタリング
デバイス設定のメンテナンス	[Inventory] > [Device Management] > [Configuration Archive]	デバイス コンフィギュレーション インベントリの保守
Prime Infrastructure に追加されたアクセス スイッチの設定	[Configuration] > [Plug and Play] > [Initial Device Setup]	デバイスのセットアップと設定のヘルプの利用
ネットワークに今後追加されるデバイスの事前設定	[Configuration] > [Plug and Play Setup] > [Profiles]	デバイスのセットアップと設定のヘルプの利用

関連資料

[Cisco Prime Infrastructure 2.2 Documentation Overview](#) に、Prime Infrastructure で利用できるマニュアルの一覧を示します。



(注) 元のドキュメントの発行後に、ドキュメントを更新することがあります。マニュアルのアップデートについては、Cisco.com で確認してください。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2012-2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

